

風俗粹好傳

上

18
遠
862



門 遠 18
1862
卷 1-2

風俗粹好傳序

擇_テ卿_ヲ為_レ家_ト蘭_テ土_ヲ為_レ屋_ト握_テ道_ヲ為_レ
床_ト挈_テ德_ヲ為_レ褥_ト席_ト仁_ヲ而_レ座_ト枕_ト義_ヲ
卧_レ被_レ礼_ヲ而_レ以_レ行_ニ是_ヲ賢_者之_ヲ謂_フ
粹_ク好_ム平_ク嗜_ム酒_ヲ酪_ヲ酹_テ腥_ト懷_テ耻_ヲ赴_ク
逐_テ望_ム食_ヲ飢_レ蛭_ト非_レ儔_ト若_ク蜩_ト若_ク蟾_ト

不顧草葉之誠，靡明靡晦，誰
致麻子之責，恒見蓬頭婢妾，
已過登徒子之好色，况於治
容好婦，寧莫術婆伽之燒胸，
春馬要夫之迷已，煽胸臆入
倡樓而喧樂，恰似獼猴戲，拙
是愚者謂粹好焉，故述與風
俗之意，以作此傳而已。干昔
文政八乙酉年正月於布山
縣九陽亭。



復拜

粹好傳目録

お記上ハ

佛説の因念記
 香ふのぬ風もあつた柳の茶

お記中ハ

俗説の略縁記
 史あつたお記と和合するの茶

お記下ハ

風説の評判記
 燈若とも后の住よ記坂茶の茶

以上



中根屋
綱五郎

近江屋
内花
咲



左七養女
小糸



中根屋
八代半

糸店

新徳女さかお前



風俗粹好傳卷上

江戸

○冬に入る風もまろふ柳の吟

工へん史記しき秦の本記ほんきふいそく。寒えする者ハ短たん襦じゆを利り

袴はかまするものハ糟そう糠かうを其あまんむとや。寒さむふむじむ緩ゆる倉くらの里さと

花な手て摺すりの辺へり。小こ一いち日にち立たち直ちよくとありて。かすかすううあるあるああききふふ

その目をまなこ涕なみだくくふふある。耳みみ搔かき賣うの依より多おほと。いいふふ者ものああるる

のといい方の下のしたのしたをを塵ちりゆゆと。親おやの代しろままハ一いつ塵ちりののををほほじじか

佐次郎 生質一針 悪うものぞと云ふと相果て居る小
 欺されて母のれが身ふんふんする。兼耀兼花小たちち
 舟代を渡し。碇泊ふ事小者小配偶女をうも口惜く
 口が親里ある。行際村へ行って。ぬの身のう人を嘆き
 小星の今入度代とあつて。近年ふ他少後き其の
 去ん西治之娘。八月土日の洪あふ持つてくる田比田
 島も結ぶ所じあひて。無らん舟とありければ佐次郎
 家のどこのあつて。又家をたらし返す。あふきが谷なる

要人形及小整のあつ人あれがこれ小使りて店法と必書ひ
 けとん及のうら店不任番と。元子もやそれ耳の撰え
 四文の垂渡り小女をうか竹も友縁きと。去る小あつて人
 せんとの賃仕りも。負走我より足在り。国朝をの影
 信不地のはら店賃由不納とあつて。兼耀の授合りのと
 店法の云々も。家のどく不押のひ或日あ事仕出湯小
 入り戻りかけ。湯手拭を推繰ながら 兵九
 ぐやで佐次郎さんあひかあつての 佐次郎「イヤあつてはは
 佐次郎が肉の上
 さまふりてをけ

世^{けん}の人も耳^{みみ}の垢^{あか}がたぬらぬと云^いへて一向^{かうこう}愛^{あい}人がござら
ません^ま。漱^{しゆ}く一日^{いちにち}ふ三十二^{さんじふに}よりみ十^{じゆ}のあひがせ^せのよ^よでござ
らまます^ら。兵^{へい}九^く「はやそれやあつ^{あつ}」。獨^{ひとり}り口^{くち}でもさう^{さう}それな^なテ
女^にをうお^お行^ゆま^まぶ^ぶれの紐^{ひも}あて^{あて}。そのたれが^{あひ}帯^{おび}を^{おび}ぎ^ぎめ^め。これ^{なま}強^{ぢやう}食^{じき}
とたよのうら^{うら}香^かのふ^ふう^うぞく^{ぞく}あり。若^わを^をくら^{くら}んで^まきたら^あ「お^おあ^あから^ら」
ま^まじ^じ次^じもある^あ。家^あま^まさ^さぬ^ぬお^おの^の店^と賃^{ちん}の^の滞^とり^りが^たら^らふ^ふ
ござら^らま^まは^はト^トま^まの^のど^どく^く。兵^{へい}九^く「ア^アそれ^{それ}不^ふ付^つても^もは^はま^まの^のま^まら^らふ^ふ
乳^ちがある^あと。結^{むす}搦^なま^まよ^よら^らま^ま一^一が^があ^ある^るぞ^ぞれと^とかん^{かん}ど^どん^んのお^お行^ゆ
さん^{さん}が^があ^あ草^{くさ}あ^あ子^この^の糸^{いと}を^を巻^まく^くで^で子^こが^があ^あし^しと^とり^りゆ^ゆり^りん^んで

うら。扱^あさ^さぬ^ぬら^らぬ^ぬテ^テ。佐^さ次^じ「う^うエ^エそれ^{それ}は^はま^まア^アが^がら^らふ^ふ。扱^あま^まは^はし^しで^で
と^とま^まら^らま^ます^す。兵^{へい}九^く「イ^イヤ^ヤ外^あでも^もある^あ。ア^アノ^ノ申^まの^の下^げの本^{ほん}町^{まち}ある^あ
申^ま振^ひ屋^やハ^ハ知^しら^らま^ます^す。糸^{いと}同^{どう}金^{ぎん}の^のお^お取^とり^りさ^さぬ^ぬト^トヤ^ヤ。今^{いま}の^の
繩^なま^まさ^さぬ^ぬの^の親^{おや}父^{ちち}さ^さぬ^ぬ。繩^なま^まさ^さぬ^ぬと^とい^いふ^ふハ^ハ。高^{たか}野^の村^{むら}は^は遠^{とほ}
居^まの^のお^お母^{はは}の^のう^うで^で。鶴^{つる}や^や鳥^{とり}の^の列^{れつ}は^はお^お出^でる^るま^まら^らふ^ふ
が^があ^あし^しの^のむ^むじ^じの^の娘^{むすめ}ひ^ひが^がよ^よく^く。と^とし^しの^のま^まや^や七^{しち}十^{じゆ}二^にで^でも
あ^あら^らう^うが^が。備^{そな}で^でめ^め給^{たま}ま^まら^ら。女^に子^この^の罪^{つみ}が^が社^{しゃ}ある^あら^らふ^ふハ^ハ。羅^ら羅^ら
されて^たあ^あの^のう^うで^で任^ま娘^{むすめ}と^とあり^り。任^ま娘^{むすめ}と^とあり^り。任^ま娘^{むすめ}と^とあり^り。

だんといひ福と親がとく入る。そ尾よく安き存一と
女の子が。誕生とトリふらさ。徳あるんさぬの合意どめ
徳まきさぬ一射とも面目あり。射小徳まきさぬあめ徳
みいさぬとらふ。とじみッかある。徳姑子もあれづく
めく。はるが世居ハットやめて。外関を欠仕合せな
まづがゆもさ中く。そのや〜はうひのまきど子ふ。合十あ
付く。ゆあども捧ぐぬ。親まきぶふまうたふト。極肉ど
おまほし。果るとして二三十めんも。徳あるんさぬ出入する

群ぐりのまかたふあれバ。先さぬでも中まきある。そま
お笑もあるんさぬのガト。トきくあおけい。モシまかたふさんよ
おまほしをまきせとまきん〜でマ〜と〜〜と〜と〜と。乳の
と〜と〜とせんが。所濃村のやがおあふ。あり餅るちど乳が次
いご〜と〜と〜と。一人あつ子ふ春まきされず。困り切ておくれ
茶籠く繰りて捧ぐとのまほし。〜〜〜のほ〜と〜と。徳まき
あ〜と〜と〜と。ま〜と〜と。子〜と〜と。一人徳なご〜と〜と。ゆあども捧ぐ
先さぬで捧ぐあれバ。コリヤがゆり出まきさうな。ま〜と〜と。おまほし



ちかぢ信賃の未納を譲^まし。近^き不^ふ合^が登^{とう}告^こり^がの^つ借^{かり}
銀^{ぎん}を^も括^{くわ}ひ^まぬ^のの^りも^一手^て拵^ぢづ[。]夥^{おほ}く^引張^ひて^るト
至^{いた}り^あり[。]二^に支^しり^ど減^{げん}失^{しつ}ち^まり^ひ跡^{あと}り^しま^のに^あり^て
あ^んど^地の^ひ付^けき^まる[。]あ^まま^をを^こら^んト[。]い^ろく[。]エ^ス
甘^{あま}い^のど^もの^どう^く。元^{もと}子^こが[。]一^{ひと}足^{たり}を[。]又^{また}女^{おんな}を[。]お[。]竹^{たけ}の[。]カ[。]ノ[。]乳^ち
言^い子^ごを[。]世^よの[。]ひ[。]目^めの[。]。汗^{あせ}村^{むら}一^{ひと}百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}の[。]。
言^い子^ごを[。]世^よの[。]ひ[。]目^めの[。]。汗^{あせ}村^{むら}一^{ひと}百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}の[。]。
女^{おんな}の[。]女^{おんな}を[。]。お[。]苗^{えぼ}が[。]乳^ちの[。]ひ[。]り[。]て[。]言^い子^ごが[。]お[。]の[。]を[。]
の[。]中^{なか}の[。]人^{ひと}の[。]乳^ちを[。]世^よの[。]ひ[。]目^めの[。]。[。]に[。]あ[。]り[。]と[。]。

どく[。]が[。]ん[。]せん[。]身^みの[。]女^{おんな}を[。]ト[。]い[。]と[。]も[。]。三^{さん}度^ども[。]一^{ひと}手^て拵^ぢる[。]毒^{どく}
あ[。]つ[。]の[。]も[。]あ[。]つ[。]て[。]極^{ごく}り[。]茶^ちの[。]素^{もと}度^どり[。]お[。]陰^{かげ}の[。]。[。]極^{ごく}が[。]
せ[。]く[。]な[。]り[。]お[。]か[。]り[。]内^{うち}で[。]擽^く粉^{こな}の[。]乳^ち極^{ごく}利^りも[。]臭^{くさ}子^ごト[。]地^ちの[。]
陰^{かげ}の[。]ど[。]う[。]。ま[。]ぬ[。]も[。]国^{くに}の[。]果^み子^ごも[。]る[。]。仿^{たふ}そ[。]ま[。]の[。]け[。]乳^ち言^い子^ごを[。]
お[。]極^{ごく}と[。]名^な付^けけ[。]が[。]。今^{いま}さ[。]ら[。]考^{かん}へ[。]て[。]見^みれ[。]ば[。]あ[。]ん[。]ま[。]り[。]極^{ごく}も[。]と[。]れ
お[。]。元^{もと}子^ごの[。]金^{かね}の[。]だ[。]ん[。]く[。]ト[。]や[。]一^{ひと}減^{げん}が[。]な[。]り[。]。是^{これ}を[。]だ[。]ん[。]末^{まつ}始^{はじめ}終^{おわり}厄^{やく}
分^{ぶん}を[。]一^{ひと}拵^ぢけ[。]こ[。]の[。]が[。]お[。]極^{ごく}あ[。]り[。]ト[。]。ま[。]ま[。]を[。]と[。]め[。]む[。]を[。]見^みて[。]お[。]か[。]り[。]
の[。]そば[。]は[。]が[。]む[。]せ[。]う[。]お[。]す[。]む[。]る[。]夜^よも[。]あ[。]ま[。]細^こひ[。]元^{もと}子^ごも[。]延^{のび}の[。]が

清合の風をえとば。まやちてやまされ。とりたてて流しきも
そのまよあり。是よりあざうらふ。一あ倉の金を入して
夜をばうりの夜あまひ。仕合せのよふと見れ。九つ流し。お裁
宗へ戻り。又おさたもゆくさたも。る拍子おきその時ハ
朝比奈の切通し。お夜下夜明しとあり。おの鐘法ともお
まき流し。昏を夜中ト本鬼の。着もをりあれくらしあり。
まハ僕おき。家ふ又中指魚の。隈希。徳もんが。別。并。お
番。代。酒。市。も。い。一人を。勉。る。半。八。と。り。よ。者。あり。是。ハ

もと大磯至天町の生れあり。十六のどおとあふ不離れ
それより他人の中を。遍。歩。し。と。十八のどおと。中。指。魚。一。抱。
られ。か。巻。縁。奇。縁。と。も。徳。を。あ。が。ズ。レ。ド。ま。ふ。入。り。それ。あ。ふ
は。徳。宅。へ。引。は。き。進。ら。れ。て。最。ら。く。なる。月。日。を。あ。い。る。素
より。他人。抱。れ。の。熟。切。者。が。入。り。と。じ。二十五の。血。を。あ。い。る。あ
は。不。徳。を。あ。い。る。と。ぬ。く。敷。し。て。大。磯。の。く。ら。い。抜。が。け
あり。ハ。新。屋。の。轡。古。屋。ハ。仕。合。せ。と。一。口。づ。く。あ。ま。敷。ち。ら
う。す。口。鮮。ふ。千。口。ま。る。と。ん。ト。子。ミ。ハ。徳。希。が。傍。を。給。仕

する。お飯名とりる佳肥白歯(じ)十七の標(き)紋(き)より山(やま)
 茶(ちや)あふぬ山(やま)山(やま)任(に)のいろ香(か)目(め)見(み)ふ一(いち)ちふ中(な)らんと
 押(お)のひまむ。その縁(えん)お(お)りされてお飯(うま)名(な)も半(はん)八(はち)を悲(かな)情(じやう)
 とお押(お)のひまむ。若(わか)生(なま)酒(さけ)の壺(つぼ)猫(ねこ)お(お)ちた(た)び。哭(な)子(こ)お(お)給(たま)ひ
 標(ひざ)の糸(いと)の豆(まめ)煮(に)り。と(と)を(を)出(だ)す志(こころ)あ(あ)んの外(あ)ら。下(くだ)度(た)が二(に)
 度(た)下(くだ)た(た)び重(おも)り。り(り)ら(ら)懐(なつか)胎(た)の(の)地(ぢ)と(と)入(い)目(め)つ(つ)き(き)も(も)ら(ら)ん(ん)
 破(やぶ)れ(れ)の(の)が(が)。登(のぼ)り(り)ふ(ふ)と(と)り(り)ふ(ふ)お(お)ら(ら)ふ(ふ)半(はん)八(はち)の(の)忍(しの)針(はり)を(を)出(だ)し
 磨(ひ)き(き)ふ(ふ)ら(ら)ふ(ふ)を(を)ま(ま)ら(ら)ん(ん)。身(み)の(の)あ(あ)れ(れ)が(が)免(と)せ(せ)る(る)角(かく)せ(せ)る(る)下(くだ)

りふお(お)ら(ら)ふ(ふ)ら(ら)ふ(ふ)の(の)強(つよ)も(も)あ(あ)く。意(い)あ(あ)る(る)度(た)も(も)初(はつ)登(とう)山(さん)
 歌(うた)き(き)遊(あそ)ぶ(ぶ)す(す)ふ(ふ)お(お)ら(ら)ひ(ひ)の(の)教(きやう)刺(さ)し(し)て(て)あ(あ)ら(ら)む(む)形(かたち)和(わ)じ(じ)た(た)竹(たけ)
 あ(あ)れ(れ)が(が)半(はん)八(はち)ら(ら)く(く)ト(ト)り(り)ひ(ひ)會(あ)ひ(ひ)て(て)さ(さ)も(も)せ(せ)ら(ら)れ(れ)が(が)あ(あ)ら(ら)う(う)とも(も)お
 身(み)の(の)迫(せま)り(り)神(かみ)で(で)深(ふか)す(す)も(も)と(と)月(つき)の(の)日(ひ)月(つき)お(お)ら(ら)入(い)り(り)ぬ(ぬ)て(て)な(な)ら(ら)う(う)可(か)ら(ら)ぬ
 た(た)ら(ら)け(け)は(は)家(や)を(を)憂(うれ)ひ(ひ)出(だ)す(す)。ま(ま)ね(ね)と(と)あ(あ)ら(ら)ふ(ふ)も(も)。よ(よ)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)ら(ら)で(で)ら
 お(お)も(も)お(お)の(の)思(おも)う(う)た(た)ひ(ひ)以(も)つ(つ)た(た)ぐ(ぐ)ス(ス)ッ(ッ)パ(パ)リ(リ)ト(ト)ゆ(ゆ)え(え)さ(さ)す(す)れ(れ)が(が)甚(こ)ろ(ろ)も(も)
 仕(し)合(あ)せ(せ)る(る)も(も)も(も)も(も)尾(び)よ(よ)く(く)喉(のど)を(を)と(と)り(り)。肩(かた)身(み)を(を)磨(ひ)き(き)く(く)ま(ま)ね(ね)ト
 あ(あ)ら(ら)う(う)。下(くだ)稼(かせ)き(き)の(の)え(え)も(も)ら(ら)う(う)が(が)是(こゝろ)か(か)ら(ら)う(う)ト(ト)初(はつ)幕(まく)あ(あ)ら(ら)

大結おほむすうぐいのむすむすて。我われも生涯しやうがい配はい偶ぐくくむすは。是こゝねも
 これを施おこなまます。トさ再さい三さんのい海うみも。ああまもま本ほん八はちとまぬぬふふ
 たた心こゝろ下くだままじじようよう。ふふああららぬぬ原はら居いのの備び且かつ身み給たま士しののすす
 猶なほ小こ輩はい老らうととれれども。一いつ件けん壯さう健けんあるある出でれれのの程ほどちちららままれれが
 經きやう鸛げん卵らんのの消しょうええももふふ。たたちちまま炊た火ひのの叛はん逆ぎやくををおおここ
 安やす執しやく也やのの熟じやく念ねんふふししされされ。老らう後ごのの抄しやうののひひでで魁けいのの
 名なせんせんトト發はつ賣ばい賣ばい書しよふふ深ふかされされども。ああららむむれれ実まこと也や。いい
 ままららひひのの程ほどささもも。程ほどささららもも塚つかとと。ちちららぶぶるるももここもも是こゝねねもも
 くれくれ。されさればば仮かり名なががたたががああららぬぬ身みとと笑わらゆゆ。程ほどちちららままれれがが古ふる
 端たんののををううひひああ。親おやががささららままるる。安やす産さんををおおここすすのの
 ちちああもも不ふ自じ中ちゆうああ。そそののううふふままれれるる子こもも。十じふぶぶんんのの
 めめぐぐももああめめぐぐ。業ごうののううふふようよう外がわへへ業ごうれれ今いまのの身み程ほど
 ありあり。ああららままもも本ほん店てんのの子こまま入い。高たかききなな後ごとといいひひとと
 ろろくくびび別べつ法ぽうトト本ほんりりてて勉つとめめたたれればば子こ程ほどままもも原はら居いのの身み
 ののううふふかかららううあありりトトのの身みままももささららふふああららぶぶ。此こゝれれままもも
 抄しやうののううふふ八はちがが熟じやく練れん計けいもも抄しやうののううふふもも。然しかららししくく

今入安しと大木不飲ひ初あつるをどげて守退く入
 天の居あつ下大擔あふ敵あも報年の大悪成施
 あり難くある日本町の本店ありつて昔伯父あつる
 紀及る母山小在りしが今般一場の任獄あある園て
 一宿せ山して對面あくれよ下をうらりた出故
 来せつと流るるもあはれ傷を中して身の腹をぞ解ひ
 々れが強きもそれハ定めてよ死きひをひるの吉忠
 らんと道中の入り用強禁ひの子高とて五分の極と

朔月きつるねれバ親ぎとありつる女を解ひ妻ひの縁
 ありて親も心内へ配偶あど長治のうち小自らせられが
 本店あても給人をよして重年の少訪あもなす
 ともあきふあく喉りぞられバかろあハ又原吾徳あ
 より金十あ響うお業うあつあや里いあ村が隣りて立
 後りたるをわいはか飯名があや里とりあハ後最善し
 ありてたが獨りの母あつるがまあいんいよふいぬめ

あて。美名を^{いと}仲細のお^とあてとよ^との^と意^とに^と冠^とせんと
とる^とト^とり^とふ^と熱^とあ^とつ^とあれ^とが^とま^とま^とあ^とう^とま^とが^と事^とに^とあ^とめ^と
ま^とん^とざ^とら^と。又^と熱^とま^との^と容^と貌^とあ^との^とあ^とら^とざ^とれ^とが^とそれ^とを^と餅^とを^と
な^と〜^とと^とあ^とれ^とを^と餅^とに^とせ^とんと^とあ^とて^とら^とふ^とお^との^とひ^とを^とう^と。鶴^と賀^と
岡^との^と別^と荘^とに^とま^とふ^とま^との^とせ^と〜^との^とあ^とら^とよ^とん^とが^と遠^と居^との^と岡^との^と
附^とま^とあ^とん^と。び^とづ^とる^とま^との^とめ^とと^とめ^とて^と出^とせ^と〜^とお^との^とひ^とを^とら^とぎ^とる^とま^と
ハ^とが^とは^と辞^とふ^と羈^とん^とさ^とれ^とて^とす^とぞ^と不^と合^との^と蔓^とを^とじ^とあ^とん^とと
せ^と〜^とら^とが^とお^と岩^と環^とう^とお^と半^とハ^とを^と稻^と村^とが^と傍^とへ^と振^とひ^とだ^とら^とぬ^と

歌^と〜^とう^とけ^とて^とと^とれ^とち^とど^との^と縁^と計^とも^と表^とハ^と後^と家^とが^とふ^とより
い^とも^と裏^とハ^と半^とハ^とが^とお^との^とひ^と付^とあ^とて^と釣^とを^とう^と〜^とひ^との^と暇^と次^と
と^とう^とて^と〜^とを^と〜^と婿^とま^とと^とう^とと^とあ^とう^と。い^とな^と村^とが^とさ^とれ^とハ^とあ^とら^との
下^と〜^とち^とど^と近^と〜^とと^とる^と一^と本^と町^との^と中^と指^と金^とに^とは^と始^と末^とが^とめ^とれ
〜^と知^とれ^とま^とが^と面^と目^とも^とあ^とれ^とは^と合^とせ^と。ト^と是^と〜^との^と母^と子^とあ^とら^とう^と哉^と
〜^と引^とは^とれ^とて^と我^と生^とれ^とら^とる^と大^と磯^との^と重^と天^と町^とに^と引^と紙^と々^とり
作者^とい^とう^と〜^とま^とが^とと^とれ^とあ^とら^とが^とあ^とら^とん^との^とま^とが^とあ^とら^とふ
あ^とら^と。入^とり^と〜^とお^との^と〜^とら^と〜^とあ^とら^と〜^と。其^と兵^と

あれバ。胡幕の粗云々。是ありきん〜と
 然るも。抑の〜り見物語とあり。世に大結ハ
 新内節の中。指屋纏り。突情花咲が身の上
 中々。マツハ速ハとれきりトある。よろ〜〜
 判

風俗粹好傳卷上

風俗粹好傳卷中

江戸

○火あれども水と和合虫の糸

純虎勞多〜物犬犯〜。鯉鱗裏〜奴馬小。お〜
 たるがど〜。裏小行。津村の百姓。毎他ハ。親の代。より小田
 を耕〜。畑を〜入。あも稼ひ。ごが〜か〜り。〜あり
 しが。さんぬる。正治三年の洪水。お。持つ〜。田。地。田。畑。の
 悪〜大沼とあり〜。その〜人の百歩一も。おありの収

ざろふ。今いまの尾おし持もちちち拵ぢぢ。妻子さいしをを書かき月つきづきの苗なほ
もちす。新あらたてたままくく以も里さとふ。埒らち入い埒らちむむぢぢちちららももはは
と。登のぼるるりり耕こりりるる田た畑はたを。女にををううおお苗なほ一いつ儀ぎりりて。これこれを
今いまよりより人ひとふふ形かたちけ。耕こりり地ちををもも染せんるるももああが。教おし子こニニ人ひとががああの
うう人ひと録ろく死しねねるるままぞぞああらら拵ぢぢののままささ。我われハハ拵ぢぢののひひよよららののお
且かつぶぶああららくく也やりりてて拵ぢぢ。ああままののいいててええんととままぬぬるる
んんののうう密ひそかかふふままののおおつつかかののごごららふふ行あけけとも
ああらら拵ぢぢ。死しるるももああららくくおおははしし浮うききふふああららふふららふふ

あれあればば何なにももををままままおおかかららいいぬぬららせせしし。埒らち入いくくてて二年にふたとし
併ありりののじじををららふふ。又また妻つまのおお苗なほハハ且かつももおおつつかかららいいぬぬららせせしし。おおらら中ちゆうよりより一いつ人ひと拵ぢぢのの小こ糸いとととららるるをを洗あららわわせせてておお養やし育いくしし
拵ぢぢららいいじじみみああれれトト女に他たがが倚よりりももたたててああれれのの
たたのの日ひををまま糸いとひひ拵ぢぢちちらら流ながれれやや兼あららもも風かぜ中ちゆうののままのの
おおままががののああらら海うみのの底そこああらら河がののままううトトおおれれおおははららたたとと
ううまま福ふくつつ。実またたおおかかききゆゆくくままちち拵ぢぢののままああららふふ並ならぶぶああらら
よよりりもも実またたおおかかききゆゆくくままちち拵ぢぢののままああららふふ並ならぶぶああらら
よよりりもも実またたおおかかききゆゆくくままちち拵ぢぢののままああららふふ並ならぶぶああらら

こころ _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 小まゝに _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 と。おのゝまの _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 唇 _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 影 _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 可 _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 の _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 る _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}
 あ _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ} _{こころ}

重 _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ}
 の _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ}
 着 _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ}
 推 _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ}
 口 _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ} _{あつ}

それのまゝ居てく。抑りのず。知ず。皆ら。この年を
暮ら。石ず。怒り。あふ。あふ。たぐひ。不積る。教く。を。後
夜。の。く。して。ま。あ。う。あ。う。ぬ。中。く。お。誰。ま。ぶ。う。の
関。ち。り。も。あ。く。一。と。毎。毎。う。の。月。日。を。又。寝。不。睡。ち。う。く
ど。き。う。く。う。寝。不。あ。う。く。斤。濃。村。あ。く。お。苗。が。田。畑。を。終
る。秋。ハ。ト。う。の。の。よ。れ。た。う。を。ひ。く。に。多。く。一。せ。り
し。が。ま。ひ。の。よ。れ。お。う。ら。と。多。地。が。住。る。所。を。ま。は。り。終。て
六。条。田。の。う。う。し。が。珠。板。五。町。あ。く。ゆ。う。あ。く。多。地。お。り

あ。い。な。れ。が。大。キ。お。あ。う。く。び。終。て。う。く。死。對。面。お。身。の。恙。な
れ。を。な。り。し。供。も。れ。お。付。く。昔。ま。う。く。ま。う。く。う。く。と。あ。り。斤
濃。村。お。終。し。一。垂。れ。し。お。苗。ど。の。う。う。と。あ。く。この。ぬ。玉。を。ま。ち
候。て。去。年。の。秋。の。末。ッ。方。と。が。れ。死。お。死。あ。れ。ま。じ。し。に。に。由
余。不。あ。く。田。畑。を。終。り。し。縁。あ。れ。が。見。捨。て。も。置。れ。ず。又
う。ら。配。難。れ。純。口。の。お。上。人。さ。る。お。終。ひ。中。終。り。て。お。ま。ん
せ。と。が。た。が。面。妖。な。ふ。側。と。り。み。れ。ア。ノ。む。す。め。の。小。あ。ら。ま。や
か。う。う。の。お。ん。ど。大。魔。が。は。して。終。業。お。で。も。被。り。し。

ちりまづ。ア〜これゆゑの因念ト也。さうらうんを
おち付く。無地「ア〜さあや〜」
のるゆゑ。ア〜さあや〜
石地義を指す。今も有り持たれる。無地「ヤアこれハ
イヤヤ事のごくせんぞん。倫より他探ハヨシとぞあ〜人亡
聲お持ち来。お首ごの戒名サア〜これを足て疑ハ
を晴されよ。懐中の紙入よりとり出。無地「ごま
おち付く。無地「ア〜コレ〜」
無地「ア〜コレ〜」

女ごの戒名トハ。どう考へてもなまごらあるゆゑ。はこ
倫より他探也。ア〜一考お来。女ごうや。おまおま
疑ハを晴されよ。これより無地「疑ハを同る〜」
住家へあり。おづ門口よりおまおま。アイ〜
答へ〜。ア〜おまおま。無地「ア〜」
おまさん。ア〜おまおま。無地「ア〜」
無地「ア〜」
おまさん。ア〜おまおま。無地「ア〜」
おまさん。ア〜おまおま。無地「ア〜」



いまへ一死ののを。我内不投入トトト。年他これををた上テ
 捨んとあるを。緞八八か一山り。供も奇代の珍るりうま
 今此年於婆おある一ある戒名と。されお昔持業直し
 ともいふおくり戒名と。少一も文字の擗らざるん。マ本
 毎妙法蓮花經。や一死トするの二ツあり。まら一とれト一
 くらぐと。古々のるり。ゆるあざるを。おあ一も入トしされて
 毎他も身是教ふ。測く。のにおあ。あきれて。文お云
 地あもあく。な。紡律と。年於婆を。詠め。酒お酔る。如く

清く申ふ。女をうの幽霊と云ふ。ねが松の倉倉らー
尸を母の人の鐘を湯にす。女の一寸念。最一や
道理。借も怖ひの。借も鬼。鬼も定めてありの
ぞ。ト。黄燭。お方の毛。強直と。毒のどく。あり。も。き。こ
ころ。く。ま。や。く。この。分。こ。く。人。う。ら。ん。松。の。乃。一。や。折。角
市。回。向。あ。ま。り。よ。ト。秋。八。が。ぬ。り。足。小。女。他。の。と。死。引。ひ。て。や
と。れ。さ。く。一。く。ぐ。で。毒。の。と。あ。ら。ば。古。竹。の。か。ま。も。あ。ら。く
ま。下。く。あ。ら。ぬ。と。れ。あ。ら。ぬ。の。世。ま。切。か。ま。の。仕。中。も。あ。ら

くれと。ま。ひ。ト。ま。う。て。ま。う。と。く。小。仔。丹。の。家。士。え。ほ
ま。有。ハ。何。も。あ。ら。ず。ま。う。で。一。を。お。ま。ま。を。付。て。お。ま。ま。れ。と
神。な。ま。この。香。仲。男。ほ。と。ま。あ。り。ま。ま。ま。ま。も。た。め。く
秋。八。が。と。れ。ハ。何。も。あ。り。あ。ら。ず。だ。丁。ど。透。後。の。遊。了。
よ。の。魁。准。一。を。お。ま。ま。を。お。ま。ま。と。お。ま。ま。と。お。ま。ま。と。お。ま。ま。と。
各。他。も。是。よ。う。地。を。あ。ら。す。と。う。く。ト。秋。八。を。お。ま。ま。と。
くれ。が。ク。ワ。ハ。も。一。を。お。ま。ま。と。あ。ら。す。と。又。お。苗。が。る。り。小。ま。あ。ら
る。の。を。お。ま。ま。と。あ。ら。す。と。お。ま。ま。と。あ。ら。す。と。お。ま。ま。と。あ。ら。す。と。

ズン 毎他ハ尚更お堪へりて。されまは秋生涯のあやさう
あり。妻子をすて古口をたまれ。なほぐへ急那のあ
あひも。怒お流すのあれ。傳ふあなたまれば。十あゆ
く。十あふはをまれ。せめては金十あふ。古口のち
ザ 聲お聞かして。月日のまおもん付を。使のあひ
あやこ 母子とも。息女で。妻老で。啼ふるほど。おひーくも
あれのたひ。去年の秋。あうこん日。あぐ。華那波女の
ゆーと。ああおもあぐ。小糸が。あうのう。あう月。て。あ二

あ 在りも。あうく。暮あ。二。念の。怒ひ。まの。一。亡。灵り。と
おひ。ぐ。ら。う。そ。ら。あ。ろ。く。今。あ。小。あ。が。身。の上。も。と。あ。れ
か。く。ま。れ。渠。が。果。報。の。え。ん。決。牙。も。も。不。引。連。善。提。の
あ。あ。西。国。三。十。三。所。を。を。あ。あ。玉。く。の。美。仙。美。場。を。吹
奏。す。一。磕。と。撞。と。ト。且。玉。す。る。も。を。で。ぶ。づ。り。ま。ん。ト
あ。ア。ア。それ。も。仏。さ。の。の。み。ま。れ。が。あ。よ。る。の。の。あ。あ。れ。ト。と
あ。う。げ。ら。す。小。糸。ど。の。あ。う。ぐ。引。連。て。と。ん。そ。ま。や。あ。ん。ま。り
ま。短。を。ま。仕。う。と。や。それ。は。ち。あ。い。ふ。さ。一。や。ら。ん。で。も

追善美揚の吊らん中が。外ふりつらもありませう
 ト。毎他が愁うらんを泣きつ。そや日由黄身ふ及び
 くれバ。歎八いひとぬを告三桑さしてぞ戻りくる。夏ふ
 三条小むの。玉玉とつるふ。猿布。西陣系玉町の
 金嘉が汗より。まくの糸糸を仕入。ある客の。羨ら
 雪の下の本町ある。糸玉七トいふものあり。歎八ハ粒
 年出入の百姓あして。着く上糸の。厚みあれバ。今般
 下珠教町まで。尋ねる。毎他小妻の。女をうの。妹る。且
 年お婆のふ。だある。りまど。兄や。押もむ。さくはく
 の。清じて。馬ふ使ある。む。ま。小糸が。どの。う。あり。つ。み
 小丸七い。ま。あ。より。慈。怒。は。き。ん。ぎ。ー。ある。老。あ。と。群。小。い。ま。い
 吾家。ふ。一。人。の。子。も。あ。れ。バ。係。る。使。あ。れ。子。を。受。取。ひ。て。養
 育。も。あ。れ。バ。その。強。健。の。報。ひ。あ。と。ま。ぬ。の。中。小。一。子。を。も
 懐。く。る。の。の。あ。り。あ。ん。ト。風。と。ら。ふ。お。の。ひ。れ。バ。歎。八。ハ。あ。り
 言。せ。と。毎。他。く。入。ま。合。せ。し。ふ。毎。他。も。あ。れ。ば。い。へ。る

追善美揚の吊らん中が。外ふりつらもありませう
 ト。毎他が愁うらんを泣きつ。そや日由黄身ふ及び
 くれバ。歎八いひとぬを告三桑さしてぞ戻りくる。夏ふ
 三条小むの。玉玉とつるふ。猿布。西陣系玉町の
 金嘉が汗より。まくの糸糸を仕入。ある客の。羨ら
 雪の下の本町ある。糸玉七トいふものあり。歎八ハ粒
 年出入の百姓あして。着く上糸の。厚みあれバ。今般
 下珠教町まで。尋ねる。毎他小妻の。女をうの。妹る。且
 年お婆のふ。だある。りまど。兄や。押もむ。さくはく
 の。清じて。馬ふ使ある。む。ま。小糸が。どの。う。あり。つ。み
 小丸七い。ま。あ。より。慈。怒。は。き。ん。ぎ。ー。ある。老。あ。と。群。小。い。ま。い
 吾家。ふ。一。人。の。子。も。あ。れ。バ。係。る。使。あ。れ。子。を。受。取。ひ。て。養
 育。も。あ。れ。バ。その。強。健。の。報。ひ。あ。と。ま。ぬ。の。中。小。一。子。を。も
 懐。く。る。の。の。あ。り。あ。ん。ト。風。と。ら。ふ。お。の。ひ。れ。バ。歎。八。ハ。あ。り
 言。せ。と。毎。他。く。入。ま。合。せ。し。ふ。毎。他。も。あ。れ。ば。い。へ。る

系^いを^とた^さ七^さが^さる^さあ^され^さば^さ。行^まを^ま淡^ふし^ふと^ふれ^ふひ^ふと^ふふ^ふ。昔^むあ^あの^あひ^あ
と^あろ^あ。大^お後^お大^お然^おの^おん^おめ^おぐ^おと^およ^おふ^お系^あが^あ身^あの^あこ^あの^あ造^あ化^あを^あ
よ^あろ^あと^あび^あ。奉^と者^と祿^とき^と返^とさ^とる^と金^とを^と必^とす^と。夜^い敷^いあ^いど^いお^いろ^い
ぶ^いふ^い潤^いひ^いと^い。た^い七^いが^い餅^いへ^い掛^いろ^いう^いた^いれ^いば^い。た^い七^いも^い小^い系^いが^い初^いめ^い
ま^いの^い餅^いし^いく^いぶ^いる^いを^い見^いて^い。大^いキ^いふ^いよ^いろ^いと^いび^い。後^い食^いつ^いぞ^い連^い
い^いろ^いて^い。吾^いむ^いす^いち^いと^いぞ^いあ^いふ^いろ^い

風俗粹好傳卷中

風俗粹好傳卷下

江戸

○ 燦^は若^がも^も后^の入^り候^も死^に垢^をき^りの^吟

人^のの^あま^まを^をん^んて^ん。掛^のれ^があ^ま弱^をを^おし^しと^とる^とま^ま乃^乃
業^を結^をを^知ら^ばし^しと^と。天^を逆^をを^怒む^るも^ど却^つて^も細^い
を^招ぐ^の種^とあ^るべ^し。家^お耳^う取^り取^りの^佐多^ま入^り
身^のの^困窮^おあ^らう^せ七^支の^金の^やさ^お一^人の^始成^り
貴^ひい^ろが^の金^の焼^き石^のあ^のな^らん^のと^どく^く。池^の減^の

たつおしとる詮うとあつく。疾とば賣のやを死え
でも中く味の幸死世海つ小女をうかひけもその由分
こども
ハ子能小花を拵せしごとく。兵管新巻して養育も
せしが身小流来しり金ものりり減失今んた夜とが
賣の道きとの辨するが七おの記念と押しつゝ悲しく
素あより子を拵しるあ死女あれが何なるもおのひを
なく。強保の世傳も素睡あしと。生らば活よ死ナハ
死ねト。りらねをうりのや。開小か徳が女の人の慈れさ
あをさう

する侍もあ死焼人のやを死火くげも癒らけて。備不
むさう
吾輩の風の中ああ。ト他人の目小く入る候やとを乳
あるもの。悲々々来うてか種不言せ。あるひハ若者一
いそい
おれもど拵くまをくらぬる人もあり。或ひハ業の白書
ひふがえん
こう又ハ紀見丸奇意丸候方是方のか情けを流く
あ
あめの命を捨ひ。三ツのと死不癒瘡も増くして血不
あこ
の流も付す。形と光陰もさうくとるま。早と
七ツの出来あししが去の尖麻瘡もあつて陰く

切り通し不夜明しせんト彼不ふりつらちづ性来の行
後之病をどつサリと抄るト行燈一沖をつぎ小風長
岸をへんと抄のれも毎苗をつらひ後をへりてお客
を待つ客の火後のらるるを死性来あれば夜更
も散乱歩札と人どろりあつとほかニつれらるる
抄のひの介の仕合せふトヤあふり抄るる後よ内土屋ふ
しとさらば秋夜更らんと抄のふおらら嗚る嘩的ト
強来る共あれば法匠更に向らるふと法匠み六ともえ

一と女を獨りつらくよの備よりて女モレくをば
やさんトより行瀬村まどりのでせうらあなが夜更
て道が絶たせぬ是うらあまらあひまら行瀬村
つらふられませうらあまらあひまら行瀬村
ふのらあ抄のふ甲う今路をんなのた獨り行瀬村近りト
ゆあは奴らうまうまぬ喧嘩の結合うら夜更も揉み手
強中して婦人のおトカ敷きとまどりトカうらあひまら
あふんと抄のひをれづら行瀬村へまらうらあひまら

善い身とらで夜救中。身まらぶの被害めのみせも出らん
せうらねいお道におられず。けう入ともおころぐ美入や。
ちも言ぬまぬいれはさあられまへ。イ上まうふ測る由縁で
けうふ。難きま。道もたまうります。何いお。後。ヤス次も
ごうかせんが。一昨。あ。今。の。母。の。身。の。案。から。表
て。育らんと。美。理。ある。中。の。母。あ。と。世。の。人。の。並。ふ。外。れ。と
あ。し。の。の。そ。れ。い。今。ま。じ。ま。た。所。嶺。村。の。伯。父。さん。も。父。さん。が
い。ま。あ。の。て。う。ら。ま。の。ふ。行。違。を。そ。れ。り。後。ま。て。書。候。ふ。通

ま。あ。れ。た。り。と。う。ら。ま。の。モ。ウ。仕。事。を。て。ぬ。り。ご。け。丁。ど。の。定。家
あ。ど。り。ま。す。う。ら。一。緒。お。付。て。ご。ん。せ。ト。ま。く。よ。う。女。の。と。れ。ん
ま。う。か。ま。う。が。う。ら。ま。と。う。ら。ま。の。大。様。の。重。々。町。の
の。で。ご。ん。せ。う。ま。る。が。ア。ノ。所。嶺。村。の。一。人。の。伯。父。が。あ。つ。ま。す。せ
と。う。ら。ま。の。ご。ん。せ。ト。ま。く。よ。う。女。の。と。れ。ん。ご。ん。せ。の。ま。う。ら。ま
夜。交。と。お。表。た。つ。と。一。人。行。嶺。村。の。ご。り。と。う。ら。ま。の。定。家。と
又。ぬ。喧。嘩。の。後。ち。ち。份。是。お。母。の。ご。ん。せ。う。ら。ま。の。書。候。ま。じ。を
り。い。ま。あ。の。て。う。ら。ま。の。内。と。は。違。あ。り。と。も。ま。あ。の。た。り。て。い。ら。ん。が



るよせ今の夫トをまゝあつんと審くふ斗りし清敏を
 も飾くゆあふれず。それゆ昔のふぢまは使と使む
 夫トは捨られ後母より死なれ昔のまはても昔の
 面あてふまは後く死あつとまは悟あはしあつて
 そんまふ了骨をせし。ふまを譲せておが。あんまり出来
 るのでほし。それゆ我をいふ。命もあつて捨られ
 夫トの又ゆつ道するのゆあんと。それゆつるを呼るあ
 母が今宵の一ふの徳娘たふあつて。大野まよあはあり
 からの後ゆけを結く清敏の聖と町を思ひ行瀬村
 を使つてゆのでゆつる。その伯父の名ハ秋ハト。あまの
 まをすまはし。それゆまのとうま。徳懐をまはし。後母のま
 こを推るふまるるゆか。よく世るあある。あひで老角うま
 後母の街比獄のせあひのあ。あひで死なまはあ。あひ
 ありと。今命あつて。あひの種。あ。あひのあひ。あひの
 あひのまはあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひ
 はああだか谷の要人。あひのあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひ

母が今宵の一ふの徳娘たふあつて。大野まよあはあり

からの後ゆけを結く清敏の聖と町を思ひ行瀬村

を使つてゆのでゆつる。その伯父の名ハ秋ハト。あまの

まをすまはし。それゆまのとうま。徳懐をまはし。後母のま

こを推るふまるるゆか。よく世るあある。あひで老角うま

後母の街比獄のせあひのあ。あひで死なまはあ。あひ

ありと。今命あつて。あひの種。あ。あひのあひ。あひの

あひのまはあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひ

はああだか谷の要人。あひのあひ。あひのあひ。あひのあひ。あひ

めもあつますれどその母あやのその行状ようざうがまゆんで
 二十ねんあなまのさる伝でんと通とほり稲村いなむらがたれお母ほしづ
 とんあら楽お舞とらと。海うみの至天町せいてんまちしり新しんしこと
 おのれまます。生せい雙入ふたごお堂どうの備ひで生せいまに奴やつまればあて
 んだどの能よの目のともお母お母おとしつしつていづあはるのものめん
 づくあまふ。おあつらひいひいひいしつしつていづあはるのものめん
 たしつお別わかしつあまおたづなまおれり舞入まひてあまおまひり。ハア
とんと作者のまづきぬ一

斯かくく依よひまはぬり。又また行い状ざう村むらおとせあまのの年月ねんげつを
 執とるらち其そのりあし店みせ後ごとあじまろいものめだしていさる
あつねや 中ちゆう指しゆ金こんの源げん兵へい經けいあめいも七ななまの人の教しやうお入いして。ハちびのあの
ご 借かうりまお母おとのり。後ごつらる。是こゝより傾けい城じやう花はな笑わらが敷しき城じやうと
 ある。そのも。その次つぎといふらば依よひまはぬりがまはれ舞入まひしつしつていさる
 ののあれば改かし親おやより儀ぎられ。そを代しろきも法はふし。まの利きが
 ざる。耳みみ擗ならうとまを落おて。それより夜よをばあまといとて死しに
 今いま又また百姓ひやくしやうとあつて。耕かう作さくの經けい営えいもあつて。昔むかし力量りきやうをよめ

おまがされば。おのづからその業の旨い。丹練の願い。な
それば。佐渡まが田畑。おまが。納め。納め。納め。納め。
おれが。又々。必ふ。と困窮。せる。お。納。八。も。ま。の。ど。く。お。押。の。ひ。の。
は。清。川。の。辺。り。お。七。な。焼。の。全。八。と。の。二。面。去。あ。り。の。の。の。
おれが。納。の。り。永。残。ま。買。入。を。得。く。佐。渡。ま。い。お。ま。の。納。買。の。
未。納。ま。ど。納。り。せ。る。の。り。佐。渡。ま。い。納。入。と。知。る。お。ま。の。り。と
納。入。は。是。の。り。五。百。の。り。納。入。の。り。今日。の。り。か。ら。の。り。と
納。入。の。り。五。百。の。り。納。入。の。り。納。入。の。り。納。入。の。り。納。入。の。り。

海へさるる。利。納。お。納。が。ま。の。り。今日。拾。費。
を。の。り。の。り。と。あり。全。八。も。ま。の。り。の。り。お。ま。の。り。お。れ。が。
佐。渡。ま。が。い。お。ま。の。り。の。り。納。の。り。の。り。佐。渡。ま。い。今。の。り。納。入。の。り。
頻。々。お。納。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
その。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
昨。々。海。へ。さ。る。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
未。も。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
今日。行。が。付。納。け。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。

の浮玉翁人お存ひや。とる。佐々川。まじく
それれ余りお情けあふひい。是が押してたまひます。
私一人の難儀でもござんせぬ由候のさうし女ごうや
むまめが。踏込小遣ひます。金ハシ。まじく。まじく。今
不第。と。重。この。ダ。本。行。ハ。ヤ。ま。う。市。希。さ。な。ご。く。ま。じ。く。し。り。非
が。親子の老をお助けあはれて。まじく。ト。お。が。ー。や。ー。と。ま。じ。く
み。日。お。は。た。ま。い。て。も。ま。じ。く。お。せ。金。ハ。シ。ヤ。ー。と。ま。じ。く。あ。い。ぬ。く
ト。ひ。ま。じ。く。情。け。の。是。も。な。ん。と。は。と。重。の。ト。ま。じ。く。お。が。お。あ。ぐ。ま。じ。く

その代り。や。お。ま。ま。い。ひ。も。は。ま。じ。く。し。り。ト。ま。じ。く。お。あ。ぐ。あ。ま。じ。く。の。目
お。ぢ。さ。な。私。一。が。ま。じ。く。て。強。い。も。あ。ら。な。い。お。ま。ま。い。は。ま。じ。く。て。お。あ。ぐ。え
せ。父。さ。な。や。母。さ。な。の。若。者。さ。な。も。あ。ら。な。い。お。あ。ぐ。の。ト。や。お
ま。じ。く。ま。じ。く。の。ま。じ。く。お。あ。ぐ。し。り。と。ま。じ。く。あ。い。ぬ。く。ま。じ。く。あ。い。ぬ。く
お。孝。行。の。の。と。や。お。ま。ま。い。ひ。も。は。ま。じ。く。し。り。ト。ま。じ。く。お。あ。ぐ。あ。ま。じ。く。の。目
ま。ま。い。ひ。水。車。の。若。者。さ。な。も。あ。ら。な。い。お。あ。ぐ。の。ト。父。も。鼻。を。命。ヲ。捨。お
ト。ま。じ。く。の。の。ま。ま。い。ひ。も。は。ま。じ。く。し。り。ト。ま。じ。く。お。あ。ぐ。あ。ま。じ。く。の。目
陸。軍。の。の。ま。ま。い。ひ。も。は。ま。じ。く。し。り。ト。ま。じ。く。お。あ。ぐ。あ。ま。じ。く。の。目



とた。あつろよおのおをさへかくるあまら業のう人うら。
まのりてまひの子みりよ。さんまんの乳がなく。瘠妻て
ひぬまう。可^お也をよ^た。あつらからよ^{のま}。
からよ^{のま}。じり^あ。け^あ。ゆ^あ。伸^あ。教^あ。育^あ。
むす^あ。実^あの^あ。親^あと^あ。お^あ。よ^あ。か^あ。る^あ。そ^あ。の^あ。か^あ。が^あ。あ^あ。便^あ。や^あ。
な^あ。く^あ。お^あ。胸^あ。が^あ。な^あ。そ^あ。ん^あ。あ^あ。ら^あ。あ^あ。理^あ。あ^あ。ら^あ。父^あ。と^あ。母^あ。と^あ。あ^あ。
あ^あ。ら^あ。か^あ。人^あ。の^あ。よ^あ。い^あ。ち^あ。を^あ。お^あ。よ^あ。か^あ。れ^あ。と^あ。い^あ。ま^あ。う^あ。い^あ。れ^あ。も^あ。い^あ。れ^あ。も^あ。い^あ。
り^あ。の^あ。あ^あ。ま^あ。ま^あ。い^あ。ら^あ。い^あ。か^あ。の^あ。父^あ。と^あ。母^あ。と^あ。あ^あ。の^あ。あ^あ。れ^あ。ら^あ。や^あ。
と^あ。ん^あ。か^あ。し^あ。大^あ。破^あ。の^あ。ら^あ。ら^あ。ら^あ。ま^あ。の^あ。と^あ。破^あ。ら^あ。ん^あ。で^あ。ま^あ。ま^あ。し^あ。を^あ。
け^あ。さ^あ。く^あ。便^あ。に^あ。あ^あ。れ^あ。と^あ。い^あ。か^あ。人^あ。の^あ。あ^あ。れ^あ。が^あ。後^あ。に^あ。
と^あ。い^あ。村^あ。を^あ。さ^あ。ら^あ。く^あ。丸^あ。く^あ。後^あ。を^あ。く^あ。仕^あ。業^あ。に^あ。う^あ。よ^あ。く^あ。ま^あ。い^あ。の^あ。
あ^あ。の^あ。い^あ。の^あ。子^あ。の^あ。の^あ。後^あ。の^あ。と^あ。い^あ。れ^あ。を^あ。い^あ。ま^あ。い^あ。の^あ。あ^あ。ら^あ。
い^あ。れ^あ。く^あ。世^あ。の^あ。人^あ。の^あ。知^あ。れ^あ。ぬ^あ。ら^あ。ぬ^あ。お^あ。は^あ。ま^あ。い^あ。の^あ。子^あ。で^あ。あ^あ。ら^あ。
あ^あ。ら^あ。て^あ。お^あ。は^あ。し^あ。か^あ。が^あ。い^あ。に^あ。借^あ。う^あ。耳^あ。搔^あ。る^あ。の^あ。依^あ。り^あ。ま^あ。し^あ。時^あ。か^あ。あ^あ。
あ^あ。ま^あ。の^あ。別^あ。産^あ。お^あ。産^あ。れ^あ。ま^あ。い^あ。中^あ。程^あ。の^あ。後^あ。若^あ。後^あ。を^あ。あ^あ。ら^あ。
よ^あ。り^あ。密^あ。ろ^あ。お^あ。ま^あ。ら^あ。か^あ。い^あ。や^あ。ん^あ。お^あ。守^あ。め^あ。そ^あ。の^あ。嫌^あ。な^あ。ら^あ。を^あ。い^あ。く^あ。人^あ。も

ふら。それとも知れば大破へ。夢の供由も後中。あつ
ふは是後口へあ。おつ房の志業を。是はま
ぶあつても。お捨ておれおふ。大破の方さへて意が
る。ふのちを愁れあつ

是より後編のまじりや。花咲が突出の
まじりや。綱あがが奇偶絶妙の物語り。カノ新内
節おらつて。おのぬ人の情おれは美道
園まじり。おあがらつて。親吉の情おれは重りさん

おのの飛ぶおれまじり。法と。お後の
おのを。おつて。おあつて。おあつて。おあつて。
おのを。おつて。おあつて。おあつて。おあつて。
おのを。おつて。おあつて。おあつて。おあつて。

作者のこゝは工面者の金八の力。おあつて。おあつて。
おのを。おつて。おあつて。おあつて。おあつて。

テ
風俗粹好傳卷下

